

公表

## 事業所における自己評価総括表(児童発達支援)

○事業所名	吉備の里ほけっと		
○保護者評価実施期間	令和7年12月 1日		～ 令和8年 1月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 10名
○従業者評価実施期間	令和7年12月 1日		～ 令和7年12月26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 10名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 16日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども達が楽しみながら学び、心の成長が出来るように子どもの声に耳を傾け、認めあう視点を大切にして職員間で共有しながら療育を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>療育後、振り返りに時間を設けて支援の見直しや良かった点などを職員間で確認し合うことで統一した支援ができるよう意識している。</li> <li>利用児さんが楽しく課題など取り組めるように個々にあった教材づくりの工夫をしている。</li> <li>定期的に、外部講師の専門的視点から助言を受けることで職員のスキル向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>振り返りカンファに参加できなかった職員へ連絡ノートの活用しながら統一した支援に心がけている。</li> <li>積極的に外部や法人内部の研修会へ参加し、所内で伝達研修を行うことで個々のスキル向上を図る。</li> <li>マンネリ化にならないよう、利用児さんの声に耳を傾けプログラムの工夫など随時、職員間で検討を行う。</li> </ul>
2	体育館や農園など設備面が整っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>天候を気にせず、常に運動課題など体育館で取り組むことが出来る。</li> <li>季節の応じた野菜づくりができることで季節行事を楽しむことが出来る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用児さんが安全に取り組むことが出来るよう危険への配慮を怠らない。</li> <li>農園管理について：年間の作付け計画を立てる。農園手入れなど利用児さんが経験することで学びにつなげる。</li> <li>他職種の事業所の方との交流する場を設ける。(芋ほりやハロウィンなど)</li> </ul>
3	就学前のプログラムが充実している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>入学前を見据えたプログラムへの取り組みが定着している。</li> <li>専門的な視点でアプローチができています。</li> <li>職員配置が充実しており、役割を設けて実施ができています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の療育事業所を視察することで、新たな発見や学びを現場へ活かすことが出来ている。</li> <li>学校に見立てたプログラム設定をすることで、その子の強みや課題を挙げることでより良い支援へつなげていく。</li> </ul>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	親子療育から集団療育に移行することで、保護者とのコミュニケーション(連携)が不足になりがちになる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団療育では、園から療育(ほけっと)の送迎になるため、保護者の方と直接お話をする機会が少なくなる。</li> <li>連絡帳でのやり取りになるが、概ね事業所からの一方的なコメント(連絡)になりやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自由参観ができるようにする。保護者の方が自由に療育を行っているお子さんの姿が見られるように開放することでコミュニケーションを図る。</li> <li>親子行事を年1回開催する。</li> <li>タイムリーに連絡が出来るようにlineを活用する。</li> </ul>
2	親子療育を謳っているが、親子で療育を行う参加者が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>親子療育の必要性は理解されているが、仕事をされている保護者の方が多く、親子療育(3か月)へつなげることが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本は、3か月間の親子療育を推奨しているが、利用児さんの年齢や家庭状況に合わせて集団療育へ短期間でつなげるようにしている。(保護者の方と話し合いをしながら期間を決めている)</li> </ul>
3	専門性のある職員確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>姿勢維持、身体のしくみや機能、心のケアなどより専門的アプローチができるようにしたい。</li> <li>将来的に、医療ケア児の受け入れができる設備・職員確保に努めたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理学療法士や言語聴覚士、心理士など専門分野の人材確保が出来るよう働きかけを行う。</li> </ul>